

生活科・総合だより

第84号

令和5年3月10日

東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会

発行人 宮崎倉太郎

編集人 小高和子

事務局 東京都葛飾区立宝木塚小学校

葛飾区宝町2-29-23

☎03-3693-4788

東京から全国へ！「新たな価値の創造」～東京大会報告～

東京都小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究会

副会長 長瀬泰一郎

(町田市立藤の台小学校長)

第31回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会及び第24回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究会の東京大会が、令和4年11月10・11日に開催されました。今大会は両日ともに対面開催とリモート開催のハイブリット開催で実施しました。1日目は四谷区民ホールにおいて、基調提案・シンポジウム・記念講演等が行われ、2日目は4会場（新宿区立落合第三小学校・大田区立道塚小学校・世田谷区立世田谷小学校・練馬区立開進第三小学校）で、午前は授業公開・授業協議会、午後は課題別分科会・指導講評等が行われました。対面参加とリモート参加を合わせ概ね800名の参会者があり、盛況のうちに閉会しました。

1 基調提案

(1) 大会主題「新たな価値の創造」

これまでの社会情勢に加え、新型コロナウィルスによるパンデミックにより、これからの中にはこれまでの慣習が崩れ去り、先行き不透明な世の中になつた。そのような未来を生き抜く子供たちには、従来通りではなく、先の見えない世界でも自分の生き方を豊かにしていくような「新たな価値の創造」が求められているのではないだろうか。

(2) 目指す児童像

「気付きや認識を更新していく子供」

新たな価値を創造していく子供の姿とは、どのようなものか、これまで本研究会で見てきた子供の姿の変容から、7つの分科会ごとに考えた。生活科での変容、総合的な学習の時間での変容から、上の児童像を設定した。

(3) 副主題「深い学びの実現を目指して」

生活科・総合的な学習の時間が中教審答申『新たな価値を生み出す豊かな創造性』の育成の中心的な役割を果たさなければならない。生活科・総合的な学習の充実には、主体的・対話的で深い学びの実現が欠かせない。「深い学び」は、「身近な生活に関わる見方・考え方」「探究的な見方・考え方」を働かせることが鍵となる。「深い学びの実現」を通して、大会主題に迫る。

(4) 研究の視点

視点1 「学習過程」 視点2 「関わり」

視点3 「表現」

視点4 「生活科・総合的な学習の時間共通」

2 シンポジウム・記念講演

田村学先生、奈須正裕先生、本研究会論点整理委員2名が齋藤等前会長のコーディネートで、大会主題をテーマにシンポジウムを行いました。

記念講演では「予測困難な未来を切り拓く、新たな生活科・総合的な学習の時間はこう創る」を演題に、教科調査官の齋藤博伸先生にご講演をしていただきました。

3 課題別分科会

研究の4つの視点に分かれ、全国32都道府県から全部で38の提案がされ、各会場で熱心な協議が行われました。

東京大会の開催にあたり、関係した全ての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

詳しい内容につきましては、今年度の本研究会の紀要が各校に配付されますので、そちらをお読みいただけますと幸いです。

B分科会(生活科)第1回授業研究
**「人との関わりを通して、
 新たな気付きを生み出す指導の工夫」**
 府中市立矢崎小学校 樋口 玲奈

1 研究主題について

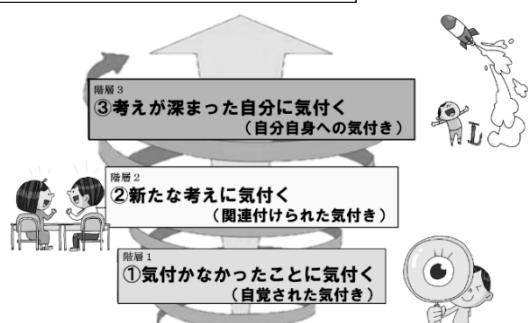
本分科会では、身近な人々に焦点をあて研究を進めている。人と関わりながら活動をすることで学びを深め、生活を豊かにしてほしいという願いをもつて研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 「気付き」の階層設定

学習指導要領に示されている文言を整理し、実際の子供たちの姿から「以前より考えが深まった自分に気付く姿」があるのではないかと考え、以下のスパイラルモデルでの階層を提案する。

新たな気付き階層スパイラル



(2) 授業研究

令和4年7月8日(火) 第1学年

内 容 (5) 季節の変化と生活・内容

(6) 自然や物を使った遊び

単元名 「なつが やってきた」

授業者 日野市立日野第一小学校 浅見 美之

○研究主題に迫る手だて

①架け橋期における学びの連続性を意識した単元計画

②見取りと支援(言葉掛け)の工夫

③環境構成(場)の工夫

○本時の目標

友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、夏の遊びを楽しくすることができる。

(3) 実践の分析

事例① 架け橋期における学びの連続性を意識した単元計画

近隣保育園6園、幼稚園3園と学級児童へ就学前の夏遊び経験のアンケートを行った。いくつかの遊びが共通して行われていたことが分かった。しかし、コロナ禍の制限があるため、十分に遊び込めていないことと、例年の夏の行事(夕涼み会や夏祭り等)が開催できていない園が9園中7園あったことがわかつた。

就学前の実態を踏まえて、自分がやりたい遊びに没頭する中で、季節や友達との関わりが自然に広がる指導計画を立てることができた。

事例② 言葉掛けの工夫

最初は一人でシャボン玉遊びに没頭していた児童に、「お友達と相談して(遊びを)パワーアップさせてみると良いと思うよ。」と教師が声をかけた。

その児童の振り返りには、「いっぱいシャボン玉ができた。みんなと遊ぶのが楽しかった。」と、遊びに没頭できた自分と、友達との関わりの楽しさの記述があり、階層①から階層②への新たな気付きの姿が見られた。

事例③ 環境構成(場)の工夫

レストラングループは、隣にいたシャボン玉チームの様子を見て、シャボン液を分けてもらい、遊びを合体させて遊びがパワーアップした。他のチームの遊びや様子が見渡せる場になるように工夫した



ことで遊びが広がり、階層①から階層②への新たな姿に発展した。

3 成果○と課題△

○幼保小の接続を意識した学習計画を立て、児童の遊びが充実した。

○言葉掛けや場の工夫をしたことでの遊びが豊かになり、気付きの質が高まった。

○児童にとっての夏への肯定的な見方を高めることができた。

△より多くの児童の気付きを自覚させるための工夫を考える必要がある。

4 指導・講評

講師 文部科学省初等中等教育局教育課教科調査官

齋藤 博伸 先生

・振り返りで友達のよさに気付ける声掛けや次時の意欲を高める声掛けを行っていた。

・「諦めなかつたね。偉い。」という教師の言葉掛けは、児童が主体的に取り組む姿を価値付ける。次に多少の困難があつてもできるかもしれない、考える機会を生み出している。

・幼稚園や保育園と連携をとり、今後も幼児教育で培われてきたことを生かした学習を行ってほしい。

夏季研究会報告

研究部長 荒井 雄一
(八王子市立清水小学校長)

日時 令和4年8月27日(土)

場所 武藏野市立境南小学校

方法 対面式

内容 令和4年全国大会東京大会会場校より報告
(新宿区立落合第三小学校、大田区立道塚小学校、世田谷区立世田谷小学校、練馬区立開進第三小学校)、論点整理委員から基調提案の発表リハーサル、A～G分科会からの発表リハーサルと質疑応答、研究員からの経過報告、文部科学省教科調査官の齋藤博伸先生からの指導・講評

指導・講評

「東京大会に向けて
～各分科会の発表リハーサルから～」

講師 文部科学省教科調査官 齋藤 博伸 先生

概要 11月に行われる全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会「東京大会」では、課題別分科会において各分科会が日頃の研究の成果を発表します。そこで、今回の夏季研究会は、東京大会のリハーサルという位置づけで行いました。新型コロナウイルス感染症対策を行い、対面式ではありますが規模を縮小し、参加対象は、本研究会の役員・顧問・研究推進委員、東京大会会場校の先生方のみとしました。

当日は全国大会東京大会の会場校である4校から現状と今後の予定等について、報告を受けました。各校ともに東京大会に向けて実践を積み重ね、研究を深めている状況がよく分かるもので、東京大会への期待が膨らむ内容でした。論点整理委員会は基調提案についての発表リハーサルを行いま

した。今までの研究の道筋や内容が端的に表現されていました。A～G分科会からは東京大会の課題別分科会で行う予定のプレゼンを発表しました。今の時点での研究内容や授業実践だけではなく、方向性やまとめ方など率直に今、悩んでいる部分についての報告もありました。質疑応答の中では参加者から活発な意見が出され、東京大会に向けて研究内容を吟味し、よりよいものにするための貴重な時間となりました。また、令和4年度の研究員の自己紹介と研究の経過報告も行いました。研究のテーマや方向性、授業研究の予定などの報告があり、今後の研究への期待がもてるものでした。

元文部科学省主任視学官の嶋野道広先生からは、基調提案の中で、研究主題である「新たな価値の創造」についてより分かりやすく説明する必要性についてご指摘を受け、改善についてアドバイスをいただきました。各分科会へも発表の仕方等について、ご指導いただきました。

文部科学省初等中等教育局教科調査官の齋藤博伸先生には、「東京大会に向けて～各分科会の発表から～」を演題に指導・講評をいただきました。学習指導要領との関連や児童への声かけの仕方、表現活動と思考との関連性、課題の更新、人との出会いの大切さ、振り返りの指導や評価の仕方などについて、分科会ごとに丁寧にご指導をいただきました。全国の多くの小学校での実践と各分科会の研究内容と関連付けながら、具体的に分かりやすく指導していただき、研究を深めることができました。また、4校の東京大会会場校の研究内容や基調提案、研究員へのご指導も行っていただき、東京大会に向けて指針となり充実した研究会となりました。

令和5年度

第32回 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

京都大会

大会主題

学びで織りなす 色とりどりの夢 ～本気で向き合い、よりよい学びを生み出し、 自己の生き方を問い合わせ続ける子ども～

◆期　　日　　令和5年11月9日(木)～10日(金)

◆会場・内容　　1日目(午後)京都テルサ
(全体会・基調提案・記念講演・全国理事会)
2日目(全日)○京都市立御所南小学校
○京都市立京極小学校
○京都市立待鳳小学校
(授業公開・課題別分科会等)

◆記念講演　　文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
齋藤 博伸 先生 (予定)

◆主　　催　　全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
近畿地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
京都市小学校生活科・総合的な学習教育研究会

◆後　援(予定)　文部科学省 京都府教育委員会 京都市教育委員会
全国連合小学校長会 京都市小学校長会 京都市小学校教育研究会

京都大会 実行委員長 京都市立御所南小学校 校長 鈴木登美代
〒604-0973 京都市中京区柳馬場通夷川上る五町目242
TEL 075-223-0148 FAX 075-223-0149
mail goshominami-s@edu.city.kyoto.jp

京都大会 事務局 京都市立紫明小学校 校長 石田 淳
〒603-8162 京都市北区小山東大野町55
TEL 075-451-2156 FAX 075-431-5811
mail shimei-s@edu.city.kyoto.jp